

おわりに

鈴鹿サーキット及び県内イベント等での実証事業の結果及びリユースカップの L C A 分析から、大規模遊園地やイベント会場などではスポーツやコンサートの会場等に比べて入退場のピークが少ないことなどから容器の回収が容易にできることが確認され、リユース容器によるデポジット制度の導入に一定の可能性があることがわかった。また、遊園地などの施設やイベント会場等のように閉鎖性のある空間内においては、必ずしもデポジットという経済的手法を伴わなくても高い回収率が確保される可能性も確認された。

導入の際の課題としては、イベントの内容や施設の状況、営業の形態などを総合的に勘案して制度を構築し、デポジットの有無や運営のしくみ、実施対象の範囲などについて最適な方法を工夫していくことが重要であることが挙げられる。さらに今後のリユース容器の導入やデポジット制度の普及に向けては、店頭回収という消費者の手間や小売店等における機器等のストックヤードの確保、デポジット金の管理等新たな社会コストの発生をどのように考えるか等の広範な検討も必要である。

事業活動やイベントにおけるリユース容器の使用は、企業や地域のイメージアップや多様な主体の社会的責任の遂行といった環境配慮によるさまざまなソフト面でのメリットなども勘案すれば、長期的には経済的な効果も十分享受できるシステムであるといえる。また、消費者に対しての環境に対する意識醸成にもリユースやデポジットの制度の導入はたいへん効果的である。

ごみゼロ社会の構築に向けて、今後デポジット制度やリユース容器の導入についての検討や実際の取り組みがより活性化し、遊園地、映画館等のアミューズメント施設をはじめとした事業者によるリユース容器の導入やイベント会場等における利用拡大が進むことが期待される。